



佐藤さん指導のもと新校歌を練習する児童

ピカピカの校舎で交流会

今年度開校した新車力小学校で2月20日、車力地区3つの小学校児童の交流を深めようと児童交流会が開催され、1年生から5年生155人が集いました。

はじめに、学年ごとに各教室やホールなどに移動し、4月からのクラスメート同士で、自己紹介やゲームなどをして親睦を深めました。その後、校舎内を探検した児童たちは、体育館に集合して新しい校歌を練習。作曲者である佐藤生朗さんの指導のもと、元気な歌声を響かせていました。

参加した野宮穂乃香さん(富小4年)は「違う学校の子とも仲良くなれたし、校舎はいろんなところが色鮮やかできれい。登校するのが楽しみです」と話していました。

英語のコミュニケーションを楽しもう

2月25日、市立図書館で「えいごでおはなし会」が行われ、市内外の園児ら約30人が英語の楽しさを体感しました。

これは、市内で活躍する外国語指導助手のジオ先生、デイビッド先生、コーリー先生の3人が、小さい子どもに英語に親んでもらおうとボランティアで開催するもので、今回が初めて。この日は、3人の先生が「はらぺこあおむし」など4冊の絵本を豊かなジェスチャーを交えて英語で読み聞かせし、子どもたちも大きな声で復唱するなど、会場は大いに盛り上がりしました。

えいごでおはなし会は、毎月第4土曜日14時に図書館で開催します。ジオ先生は「教科書の英語じゃなくて、コミュニケーションの楽しさを伝えていきたい」と話していました。



読み聞かせするALT(外国語指導助手)ら



福島市長より激励の農作業セットが贈られました

農業への思い、つがる市で実現目指す

市では、農業の担い手育成や定住促進を図ろうと、つがる市へ移住して新規就農を目指す「就農研修生」を支援しています。その第1号に青森市から家族3人で移住してきた齋藤香織さん(29歳)が認定されました。今後2年間、市内の農業経営士で構成される市就農研修生受入協議会(吉田誠也会長)の指導で技術や経営を学び、市内での農業経営を目指します。

3月1日、吉田会長らと福島市長を表敬訪問した齋藤さんは「つがるブランドでもあるトマト栽培を中心に、将来的には地域の雇用や6次化商品を生み出せるようがんばりたい」と抱負を述べました。福島市長は「先輩から多くを吸収して、当市の農業を担う人材に成長してください」と激励していました。

助かるはずの命を救うために

つがるライフセービングクラブ(江良聡代表)によるBLS(一次救命措置)資格認定講習会が3月4日、松の館で行われました。同クラブは、日本ライフセービング協会が公認する県内唯一のライフセービングクラブ。海水浴シーズンにおけるマグアビーチの監視や水難防止の普及活動などを行っています。

一次救命の基礎的な知識と技能を身に付けようといわれた講習会では、ライフセーバーの斎藤俊史さんが救命措置の重要性やAEDの正しい使い方などを解説。その後参加者は、ダミー人形と訓練用AEDを使った実技講習で、正しい順序などを体で覚えました。江良代表は「助かるはずの命を失わないため、もっと多くの人に普及していければ」と話していました。



心肺蘇生法を実演する斎藤さん(左)

海外遠征での成長を誓う

柏の平川華音さん(聖和学園1年、木造中卒)が、バスケットボール女子16歳以下の日本代表候補選手に選出され、3月25日から4月1日、カナダ・バンクーバーでの強化合宿に参加しました。平川さんは、全国から選ばれし候補選手29人の一人として、昨年9月から3回に渡る国内合宿でチームメイトと凌ぎを削り、今回の遠征メンバー16人に残りました。この遠征で、さらに12人までメンバーが絞られ、今年10月にインドで開催されるワールドカップアジア地区予選に挑みます。

3月13日、福島市長を表敬訪問した平川さんは「日本を背負う選手に成長するため、常に挑戦する気持ちでがんばってきます」と抱負を話していました。



平川さん(中)と木造中の小笠原茂監督(右)



卒業証書を受け取る卒業生

力強くたくましく、学び舎巣立つ

3月11日、市内5つの中学校で卒業式が行われ、306人が母校の誇りを胸に学び舎を巣立ちました。

稲垣中学校では、保護者や地域の関係者が見守る中、齋藤仁志校長が一人一人に卒業証書を授与。昨年9月に不慮の事故で亡くなった乳井紘夢さんの名前が呼ばれた時は、3Aみんなの返事が体育館に響き渡りました。

在校生を代表して2年生の山田寿佳さんが「稲垣中学校で学んだことを胸に、選んだ道で鮮やかに咲き誇ってください」と送辞。続いて卒業生代表の佐々木真央さんが先生や在校生、両親に感謝の気持ちを伝え、「稲中生としての誇りを胸に、未来への一歩を踏み出します」と力強く誓いました。

新入生児童に防犯ブザーを寄贈

株式会社伊藤鋳業(増田教正代表取締役社長)が3月14日、市に防犯ブザー230個を寄贈しました。これは、同社の地域貢献活動の一環として昨年に引き続き行われたもので、ブザーは市内の新入生児童全員(219人)に配布されます。

この日、福島市長に目録を手渡した天坂順一常務取締役は「使うことが無いのが一番だが、子どもたちが安心して通学するために役立ててほしい」と話し、福島市長は「大事に使わせていただきます」とお礼を述べました。

葛西教育長は「不審者の目撃情報は減っているが、ゼロではない。いざというときに子どもたちが正しく使えるように、各学校で教えていきたい」と話していました。



目録を手渡す天坂常務取締役(右)



風揚げの腕前を競う参加者

自慢の風青空高く 第23回稲垣風揚げ大会

稲垣風の会(横山勇一会長)主催のつがる市稲垣風揚げ大会が3月12日、稲垣町の岩木川河川公園で開催され、県内外の30団体約280人の愛好者が風揚げの腕前を競い合いました。

競技は風の大きさをクラス分けして行われ、風揚げマナー、安定度、音の鳴りなどを審査。この日は好天に恵まれたものの、風が弱く風揚げには難しいコンディションでしたが、参加者は持ち前の技術を発揮しながら、春のすがすがしい青空に自慢の風を並べていました。

結果は次の通りです。(敬称略・最優秀賞のみ) 子供の部：藤本新、一般Aクラス：三上光義、同Bクラス：境谷学、同Cクラス：小山内忠、団体の部：松山風の会、創作の部：蒲倉一郎